



PROFILE メンバーは④鈴木久美さん（佐倉二区）、⑥小川文子さん（東町）、⑧中山綾子さん（早苗町）の3人。仕事、家事、子育てをこなしながらサークル活動をしている。

子どもたちの
温かい心を育てたいんです
人形劇サークル
「ドレミ」



子どもの笑顔が
活動のエネルギー

「大きな賞をいただき、喜びで胸がいっぱいです。子どもたちの笑顔が活動の源です」。

「第28回中日ボランティア賞（中日新聞東海本社ほか主催）の授賞を喜ぶのは、人形劇サークル「ドレミ」の3人。サークルの立ち上げから16年、長年の社会福祉への貢献が認められ、受賞に至った。

同サークルは、市内外の教育施設や老人施設などへ出掛けては、人形劇や腹話術を披露している。最近では、市外のイベントや施設からも出演依頼がくるほど人気が高騰しているという。

10月29日に開催された市ふれあい広場では、初お披露目となる「ともだちや」を熱演。人形たちのユーモラスな動きと軽妙な話術に子どもたちの目は舞台にくぎ付けだった。

みんなを笑顔に
ただそれだけで

3人が集まるのは週1回。12時半から13時半までの1時間だけ。仕事をしているため、3人がそろうのはその時間帯

しかないという。まさに短期集中、寸暇を惜しんで練習に励んでいる。

メンバーの小川文子さんと中山綾子さんは「この活動が楽しいんです。もちろん家族の理解があつて、活動ができています。本当に感謝しています。最近では、子どもや夫までもが、劇の道具作りを手伝ってくれるんですよ。家族みんなで楽しみながら小道具作りをしています。サークルを通じて家族の絆も深まっています」とっこり。

同サークル代表の鈴木久美さんは「3人とも、好きだから続けられるんでしょうね。数年前に白羽小学校で人形劇を演じた時『親子で大笑いでき、仕事を休んで見に来たかき、仕事を休んで見に来たかきがありました』、『子どもの大笑いする姿を久しぶりに見ました』と保護者から感想が寄せられました。人形劇を続けてきて本当に良かったと感じた瞬間でした。私たちは、難しいことを考えず、みんなが大笑いできる時間を作りたいたいと思っています。一緒に活動してくれる人がいれば、いつでも大歓迎です」と笑顔で期待を込めた。